

第12章 食品衛生・狂犬病予防

1 食品衛生関係

最近の食肉の生食や加熱不足を原因とする食中毒の発生、食品表示の偽装事案の発生等により、食品の安全性や食品表示に関して消費者の不安感が高まっている中、平成27年度に、廃棄されるべき食品が不正に流通し、スーパーや弁当屋で販売された事案が発生した。このために、岐阜県食品安全基本条例の規定に基づき策定された「岐阜県食品安全行動基本計画」のもと、従前から実施している食品の安全・安心対策の推進に加え、弁当屋等の監視をさらに強化するなど、食品の安全性の確保と県民の食品に対する安心感の向上を図った。

また、平成27年度に岐阜県HACCP導入施設認定制度が導入されたことから、食品製造施設に対して認定に向けて必要な指導、助言を行った。

平成30年6月に約15年ぶりに食品衛生法が改正され、HACCPに沿った衛生管理の制度が導入され、原則としてすべての食品事業者自らが衛生管理計画を作成し、計画に基づき管理を行う必要があります。さらに、食中毒防止を目的とした衛生教育を、各食品衛生責任者、集団給食施設従事者などを対象に実施した。

2 狂犬病予防関係

近年、少子高齢化及び核家族化の進む中、動物を家族の一員として生活する飼い主が増えている。その一方で、一部の飼い主のモラルや動物愛護意識の欠如により、生活環境の悪化、動物の遺棄や虐待などの問題が後を絶たない。

そこで、平成24年9月5日に改正された「動物の愛護及び管理に関する法律」に基づいて、動物取扱業者に対する周知・指導を行った。また、動物の愛護と適正飼養の推進に向けて、平成26年から10年間の計画として見直しされた「岐阜県動物愛護管理推進計画」に基づき、「動物愛護教室」「愛犬のしつけ方教室」などを実施して、地域における動物の愛護と適正飼育について普及啓発を図った。